

文學士 小倉進平著

國語及朝鮮語のため

緒言

言語の疏通は兩民族融和の楔子たることは言ふまでもない。内地人にして朝鮮語を理解し、朝鮮人にして國語を了解するものの、直接間接に相互の感情を和らげ、其の利益を増進し得たるの例は實に枚舉するに遑が無い。近時國語及び朝鮮語に關する著書の多數に刊行せられるのも、此の意味に外ならぬ。併しながらそれは多くは會話書の類に止まり、未だ之を以て語學の眞趣味を喚起するに物足りぬやうな氣がする。余は固より淺學菲才、敢てかくる言をなすやうな資格のあるものではないが、幾分でも此の種の缺陷を補ふことが我々の義務の一つである如く考へられる以上、む

げに緘黙を守るのも社會奉仕の道に適つた所以ではあるまいと思はれる。それで折に觸れ時に隨ひ、心に思ひ浮んだ事柄をかれこれ書き連ね、終に本書を成すに至つた。收むる所の諸篇、固より卑近通俗なもので、専門家の手にすべき價值あるものでは無い。唯多少なりとも、國語又は朝鮮語を研究する人の參考となり得たならば、何よりの幸福と信じて居るのである。

大正九年十二月

著者識

國語及朝鮮語のため

目次

一	言語の系統的分類	一
二	言語の形態的分類	六
	一 形態上の分類	六
	二 言語發達の順序	一七
三	國語及朝鮮語の系統	二一
四	我が帝國內の言語	三二
五	國語朝鮮語の語彙比較研究資料	三六
六	漢、吳、唐音及朝鮮語の字音	七五
	一 日本に漢字の傳來した年代	七五

二	漢吳音……………	七九
三	唐音及宋音……………	八五
四	朝鮮字音の種類……………	八九
七	國語字音と朝鮮語字音との比較……………	九一
一	頭音……………	九一
二	末音……………	九五
八	漢字漢文の訓讀……………	一〇二
九	國語及朝鮮語に於ける重箱讀と湯桶讀……………	一〇九
一〇	朝鮮で學習せられた外國語……………	一二二
一一	日本の朝鮮語學と朝鮮の日本語學……………	一二一
一	日本の朝鮮語學……………	一二一
二	朝鮮の日本語學……………	一二四
一二	日本の朝鮮語學者と朝鮮の日本語學者……………	一二九

一	日本の朝鮮語學者……………	一三〇
二	朝鮮の日本語學者……………	一三三
一三	雨森芳洲の朝鮮語學……………	一三五
一四	對馬方言と朝鮮語との交渉……………	一四四
一五	對馬及朝鮮に於ける甘藷の傳來と其の名稱……………	一五六
一六	濟州島の方言と傳説……………	一六五
一七	文字の種類と系統……………	一七七
一	文字の種類……………	一七七
二	文字の系統……………	一八三
一八	萬葉假名と吏讀、吐……………	一八五
一	萬葉假名……………	一八五
二	吏讀、吐……………	一九一
一九	平假名及片假名の字源……………	一九五

一	平假名字源	一九五
二	片假名字源	二〇〇
三	參考書	二〇四
二〇	漢字略體の吐と片假名	二〇五
二二	神代文字と諺文	二一〇
一	神代文字の存否	二一〇
二	神代文字存否論者	二一〇
三	神代文字の書體	二一二
四	神代文字と諺文との關係	二二三
五	新字	二二四
六	肥人書	二二八
七	薩人書	二二四
八	結び	二二五
二三	和字と鮮字	二二七

一三	五十音圖といろは歌……………	一三一
一	五十音圖……………	一三二
二	いろは歌……………	一三五
二四	假名遣、國字、國語問題及諺文研究……………	一三七
一	歴史的假名遣と表音的假名遣……………	一三九
二	國語の假名遣問題……………	一四四
三	國字國語問題……………	一四九
四	朝鮮人の諺文研究……………	一五七
二五	文語と口語……………	一六二
二六	標準語と方言……………	一七〇
二七	國語の連濁音……………	一九五
二八	國語に入つた葡萄牙語……………	一九八
二九	國語に入つた西班牙語……………	

三〇	國語に入つた和蘭語……………	二九九
----	----------------	-----

國語及朝鮮語のため目次 終